掲載日:2024年04月08日,面名:S206X0,記事ID:K2024040800000004200
(C)河北新報社

震災で長男亡くした大崎・田村さん夫妻

命の大切さ 絵本に込め

「健太の生きた証し残せた」

東日本大震災の津波で長男の健太さん=当時(25)=を亡くした宮城県大崎市の父田村孝行さん(63)と母弘美さん(61)が、親子の思い出や子どもを失った親の悲しみ、防災伝承の意義などを記した絵本を制作した。2人は「息子が生きた証しを残す絵本ができた。かけがえのない命の大切さを伝えたい」と語る。

タイトルは「ふしぎな光のしずく～けんたとの約束～」。健太さんが生きた25年間と、悲しみから立ち上がる両親の歩みを伝える。前半は、やんちゃで大好きな野球をひたむきに続けた健太さんの成長の日々を、柔らかい筆致で描いた。

幸せな日常から一転、七十七銀行女川支店(宮城県女川町)に勤務していた健太さんは地震に遭う。支店長の指示で屋上に避難し、津波にのまれた。津波が町を襲う場面、健太さんを失った両親の胸の痛みを暗い色合いで表現した。

後半は、両親が語り部活動を続ける中で、悲しみを乗り越えていく様子を丁寧に描いた。歳月を経て、2人は畑で野菜作りを始める。自然の恵みに癒やされ「健太はいつも見守ってくれていた」と気付く。

5年前に「次世代の子どもたちに絵本で震災の事実や命の尊さを伝えたい」と、交流する横浜市などの音楽家3人と一緒に制作を始めた。両親が原案をまとめプロデュース。音楽家が作画を担当した。

「光のしずく」は空から見守ってくれる健太さんをイメージ。「何事も投げ出さずに続ける」と健太さんに教えてきた両親が、伝承活動の継続を誓う。

A5判カラー41ページで1000部制作。うち400部程度は順次、宮城県内外の教育機関や団体、個人に寄贈する。残りは県内の書店などで販売する。1部1100円。

弘美さんは「これから未来を生きる人の命を照らす絵本を作れた」と語り、孝行さんは「一人一人の命を最優先に考える社会を実現させる。諦めずに健太との約束を守り抜く」と決意を新たにした。

(石巻総局・山老美桜)

絵本を完成させた田村さん夫妻